

多機能遮音柵を共同開発

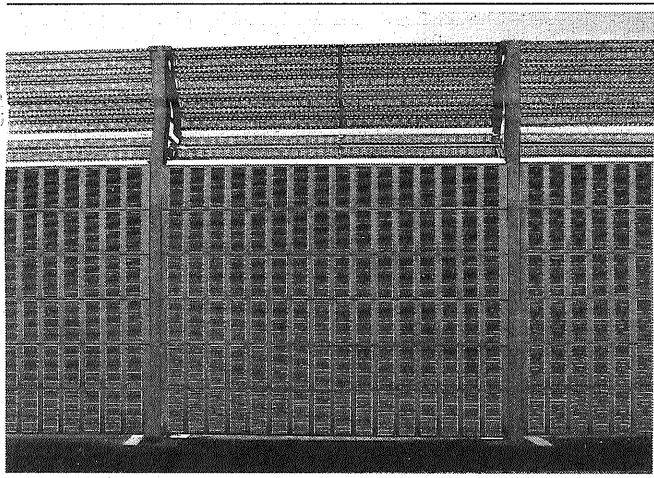
理研興業とJEE建 材

防雪柵のトップメーカー・理研興業(柴尾耕三社長)とJEE建 材(大出直文社長)は、多機能遮音柵を共同開発した。同製品は業界初で、両社が長年培った独自技術を融合し、製品化に成功した。国土交通省の新技术情報

剥離する渦が停滞し、柵の風下側に雪が溜まる。そのため柵の高さの2倍程度は、路肩から離して設置するのが望ましいと言われている。理研興業では、長年肩近傍に設置されるのが一般的。一方、防雪防風柵は雪による吹き溜まりや視程障害を防止するが、柵の上端から

溜まりは発生しない。ただ支柱が屈曲して倒れるため、遮音柵の吸音板が土からの差込みによる配置作業となることが課題だった。そこでJEE建 材では、さらさら吸音板の改良に着手した。従来の吸音板は、柵上端からの落としこみで下から順番に配置を行い、支柱と吸音板の隙間に硬質ゴムで固定していた。下部の損傷がある場合は、上の板から外さなければならず、取り替え作業に時間を要していた。そのため吸音板の形状そのもの見直しを行い、支柱の外に板を配置し、その位置からでも取替えられるよう改

善した。また吸音板をスリム化し軽量化に成功。さらに吸音板をひし形状にし、端部を斜めにカットした形状とする。さらに、上に配置する吸音板をくさびのようにつまみ寄せ、吸音板の固定を可能にした。素材も腐食しづらい高耐食性めっき鋼板を採用した。両社では、既設の防雪柵にも改良できる方法を検討中だ。理研興業では、上端の屈曲した凹凸返しと誘導部を別ユニット化し支柱をH形鋼そのものにユニットを装着することで、従来の吸音板の落としこみによる吸音板の配置を可能にした。さらには遮音効果と防



理研興業とJEE建 材が共同開発した多機能遮音柵

本社来訪

◇村上功氏(県技術士会長) 15日

【訂正】11日付1面に掲載の花巻市が計画している豊沢橋の記事中に誤りがありました。現在の豊沢橋の橋台は2基、橋脚は11基でした。お詫びして訂正いたします。